



あ、自分にもできる（親近感）活動があるかもしれない（興味・関心）参加してみよう（行動）
そんな会員向け通信を目指しています。



日本の木造建築を救え！ ～人と人が繋がり起きた奇跡～

退職後の過ごし方を考えていた櫻井さんがロータリークラブの講話会で出会ったのが DF だった。以来 15 年、DF 活動を楽しむ傍ら、「森づくり会議」*注)の会員としても活動している。皆さんは、日本の神社仏閣の修復に使われる「木」についてご存知だろうか？ 樹齢 2～300 年の大木が使われるが、国内での調達は今や年々難しくなっているという。そうした中、森に大径木を残し、木造文化財を守る仕組みを作ろうと始まったのが「森づくり会議」だ。元々野鳥の会会員で、環境（水、鳥、森）に興味を持っていた櫻井さんは、その新聞記事を目にするとすぐさま電話をし、活動に参加した。

人と人が繋がり、関係者の努力を経て奇跡が起きた。顧想園（東久留米市）のアカマツの巨木が奈良の宮大工さんに買い取られ、数年の熟成を経て巖島神社の大鳥居の修復部材として蘇ったのだ。地道でも、良いと思うことをやり続ければ大きな喜びに出会える。地域デザインも人と人との繋がりではないだろうか。

談：櫻井三紀夫 （808）

編集部注記 「森づくり会議」*の正式名称は、(一社)文化遺産を未来につなぐ森づくり会議。寺社関係者、木造建築の匠、森林所有者、森林行政にかかわる人々等、さまざまな立場の人々の知恵を結集し、文化遺産を守る森づくりの方法を考えるため、2002 年に設立された。「森づくり会議」を通じ、巖島神社と顧想園が繋がった経緯は「日本再発見紀行 第 5 集」に詳しく書かれている。

◆◆ 私の推し街 連載 ◆◆



岐阜・『じねんじょ列車』と犬山城

千田康夫 (1409)

三連休、昨年の青森ストーブ列車に味をしめ、今年は岐阜のじねんじょ列車へ。新横浜から名古屋、恵那を経て、明知鉄道に揺られる。12～3月は自然薯を使った弁当が供され、とろりとした自然薯ご飯を里山風景と共に味わえる。上り勾配の車内で自然薯ご飯をしめに、持ち込んだ酒をくいとやる。昼から頬がゆるむのは大人の遠足の特権だ。終点・明智駅周辺には大正ロマン村が整備され、初代村長が高峰三枝子と知り、歩けば場末の映画館の湿った匂いまで蘇る。夜は居酒屋「つげや」で老夫婦の掛け合いに耳を預け、湯気の向こうのやさしさに胸がほどけた。



写真撮影 千田康夫

翌朝は古民家風喫茶「らんぷ」で濃い珈琲。窓からの淡い光に、昨夜の酒の余韻が静かに溶けていく。その後現存最古の木造天守を持つ国宝犬山城へ。天守閣見学は80分待ちのため見上げるだけにしたが、登らずとも木曾川の風が城下の景色を運んでくる。急がぬ二日間が、少し湿り気を帯びた静けさを土産にくれた旅となった。

編集部注記：明知鉄道の食堂列車には、きのこ列車（秋の味覚・松茸など）、寒天列車（地元特産の寒天料理）、枳酒列車（地酒と枳を楽しむ企画）などがあります。



本部便り

《私の推し街大募集！》

岩手県、宮城県、新潟県のお国自慢

地域デザイン通信では、会員の皆様の「心の中のふるさと」自慢を掲載しています。生まれた場所、かつて住んだ場所、思い出の地など、是非ご自身の思いをお寄せください。自薦・他薦を問いません。

=要綱=

- ・本文 400 字以内
- ・タイトル
- ・写真、又は絵 1 枚

詳細は編集部までお問い合わせください。



《イベントのお知らせ&報告》

- ・7月2日（木） 第14回地域デザイン勉強会 15:00-17:00@DF スタジオ

山梨県北杜市の清里高原にある複合観光エリア「萌木の村」の、自然との共生という価値観に基づいた開拓の軌跡と清里のまちづくりへの思いなどを伺う。

講師：萌木の村株式会社・代表取締役社長 船木上次氏

- ・「清里高原まちづくりプロジェクト」始動

地域デザイン本部と観光立国研究会の協働で、自然・文化と共生する清里高原まちづくり（北杜市）を目指します。ご興味のある方は編集部までご連絡ください。

問い合わせ先：ご意見、感想、お問合せなど下記までお寄せください。お待ちしております

dfchiiki-tsushin@directforce.org

編集部：小島千代美・松瀬高志・宮武里美・岡田知之

（編集後記）地域と一口に言っても様々だ。今回は広く日本全国をまたぐお話。常に好奇心を持ち、興味を持ったなら迷わず>Contactする行動力が人と人の繋がりを生んだのだろう（CK）

地域デザイン通信 バックナンバーはこちら <https://directforce.net/regional-design/> ページの一番下までスクロールしてください。

